2026 年 10 月 15 日　FD 委員会

2026 年度前期授業アンケートのサマリー

1. はじめに

2026 年度前期授業アンケートの実施にご協力いただき，ありがとうございました．先生方のご協力により，今回も滞りなく実施することができました．今年度より，生成 AI アセスメントスケールをシラバスに明記することとなったため，授業における生成 AI の利用状況に関する設問を追加しました．本資料では，収集したアンケート結果を集計・分析し，その概要を取りまとめています．今後の授業改善の参考として，ご参照いただければ幸いです．なお，本集計には大学院科目およびゼミナールは含まれていないため，末尾の参考資料を含む同種の集計資料とは数値等に差異がありますことをご了承ください．

2. アンケートの回収状況

今回のアンケート実施率は 99.2%でした．履修登録者延べ数 84,268 件に対して回答数は 61,419 件となり，回収率は 72.9%でした．期末のご多用の中，アンケートの実施および回収にご協力いただき，誠にありがとうございました．授業アンケートは，FD 活動をはじめとする授業改善に資する貴重な情報です．今後とも，回収率の維持・向上にご協力くださいますよう，お願い申し上げます．

3. 各設問の回答結果

（1）単一選択の設問

今回の授業アンケートにおける単一選択（複数選択不可）の設問について，生成 AI に関する設問を除き，各設問で最も多かった回答とその割合を表 1 に示します．

表 1　単一選択の設問で最も多かった回答とその割合（生成 AI に関する設問を除く）

No	教員の授業の進め方・熱意に関する設問	回答	割合(%)
1	あなたにとってこの授業の難易度は適切でしたか？	適切	56.6
2	あなたにとってこの授業の進行速度は適切でしたか？	適切	77.4
3	あなたはこの授業に意欲をもって取り組みましたか？	意欲的に取り組んだ	51.0
4	あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか？	ある程度達成できた	59.0
5	あなたはこの授業に関して、事前・事後学習（予習、復習、課題など）を一週間平均でどの程度しましたか？	1 時間	39.2
6	高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が伝わったと思いますか？	まあそう思う	43.6
No	総合評価に関する設問	回答	割合(%)
12	この授業は総合的に判断して良い授業であったと思いますか？	そう思う	39.9
13	今まで受けた授業の中で、この授業に順位を付けるとしたらどれくらいの位置づけですか？	中くらい	49.6

設問 1・2 では，授業の難易度，進行速度ともに「適切」とする回答が最も多く，それぞれ 56.6%，77.4%でした．一方，「やや難しい」「難しい」と感じる学生は 29.0%であり，一定数の学生が難しさを感じる傾向は昨年度までと同様でした．設問 3 では，「かなり意欲的に取り組んだ」「意欲的に取り組んだ」とする学生が 71.2%，設問 4 では，「達成できた」「ある程度達成できた」とする学生が 76.6%を占めました．授業に一定の難しさを感じながらも，多くの学生が意欲的に取り組み，到達目標を概ね達成できたと認識していることがうかがえます．一方，設問 5 では，事前・事後学習が 0〜1 時間の学生が 73.9%を占めており，授業への意欲が授業外での学習には十分に反映されていない状況が続いています．設問 6 では，教員の熱意を肯定的に捉えた学生が 77.8%を占めました．また，設問 12 では，授業を総合的に肯定した学生が 87.8%に達し，設問 13 でも約 9 割が受講した授業を「中くらい」以上に位置付けています．

以上から，授業は一定の難しさがあるものの，学生は概ね意欲的に取り組み，到達目標も達成できたと認識しており，授業に対する総合的な評価も高いと考えられます．一方，授業外での学習時間の確保については，引き続き課題があることが示されています．

(2) 複数選択が可能な設問

今回の授業アンケートにおける複数選択が可能な設問（生成 AI に関する設問を除く）について，上位 3 つの回答結果とその割合を表 2 に示します．

表 2　複数選択が可能な設問の回答とその割合（生成 AI に関する設問を除く）

No	教員の授業の進め方・熱意に関する設問	回答(上位 3 つ)	割合(%)
7	この授業でよかったと思うことはありますか？	話すスピード　他	18.6
		環境・雰囲気づくり	16.7
		板書やパワポ	12.8
8	この授業で改善してほしいと思うことはありますか？	特にない	61.0
		話すスピード　他	7.1
		板書やパワポ	6.8
9	この授業で成長したと感じる能力はありますか？	教養・基礎知識	19.3
		自ら継続的に学ぶ	14.7
		広い視野で考える	11.5

設問 7 では，「話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方」が 18.6%と最も高く，「授業中の環境・雰囲気づくり」が 16.7%と続き，昨年度までと同様の傾向が見られました．一方，設問 8 では，「特にない」が 61.0%と最も高く，多くの学生が授業に大きな改善を求めていないことがうかがえます．改善項目では，「話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方」や「板書やパワーポイントなどの提示の仕方」が比較的高く，授業内容だけでなく，聞きやすさや見やすさといった授業の伝え方も学生が重視していることがうかがえます．

設問 9 では，「社会に出て活躍する際に必要な教養や基礎学力又は専門的な知識・技術」が 19.3%と最も高く，「自ら継続的に学ぶ能力」が 14.7%と続きました．専門的な知識・技術の修得に加え，継続して

学ぶ力についても, 授業を通じた成長を学生が実感していることがうかがえます. 一方,「プレゼン能力」や「倫理観」は比較的低い割合となっており，授業の目的や内容による違いも考慮する必要がありますが，これらの能力を育成する機会についても意識していくことが望まれます.

(3) 生成 AI に関する設問

今年度より追加した，授業における生成 AI の利用状況に関する設問について，回答結果とその割合を表 3 に示します.

表 3　生成 AI に関する設問の回答とその割合

No	利用頻度に関する設問	回答	割合(%)
10	あなたはこの授業で生成 AI をどの程度利用しましたか？	毎回またはかなり利用した	8.1
		ときどき利用した	19.5
		数回程度利用した	19.9
		ほとんど利用していない	16.4
		まったく利用していない	36.2
No	使用内容に関する設問	回答(上位 3 つ)	割合(%)
11	あなたはこの授業で生成 AI をどのように使用しましたか？	利用していない	32.4
		授業内容に関して質問・相談した	27.8
		情報検索した	11.2

設問 10 では,「まったく利用していない」「ほとんど利用していない」を合わせると 52.6%である一方,「数回程度利用した」「ときどき利用した」「毎回またはかなり利用した」を合わせると 47.5%となり，授業における生成 AI の利用は一部の学生に限られたものではなくなっていることがうかがえます. 設問 11 では,「授業内容に関して質問・相談した」が 27.8%と高く，情報検索や構想・アイデア出しなどにも利用されており，生成 AI が学習を補助する手段として利用されていることがうかがえます．一方で，生成 AI を利用していない学生も 32.4%存在しており，利用状況には個人差が見られます．学年別に見ると, 生成 AI の利用頻度に大きな差はみられないものの, 上級生ほど利用経験がやや多い傾向がみられました. また, いずれの学年でも, 授業内容に関する質問･相談での利用割合が高い結果となりました. そのほか, 低学年では翻訳，上級生では情報検索や要約での利用が比較的多くみられました．これらの違いには，各学年で履修する授業の内容や構成が影響している可能性が考えられます.

なお，シラバスにおける生成 AI アセスメントスケールの明示では，1,224 科目のうち，レベル 0 の生成 AI を「利用できない」とした授業が 60.4%，レベル 1 以上の利用を位置付けた授業は 31.5%でした. 全体の 9 割以上の授業で生成 AI の利用方針が明示されており，今年度から導入された生成 AI アセスメントスケールが多くの授業で設定されていることが確認されました．今後は，すべての授業で利用方針を明示されることを目指すとともに，授業の目的や特性に応じた生成 AI の適切な活用について検討していくことが重要と考えられます.

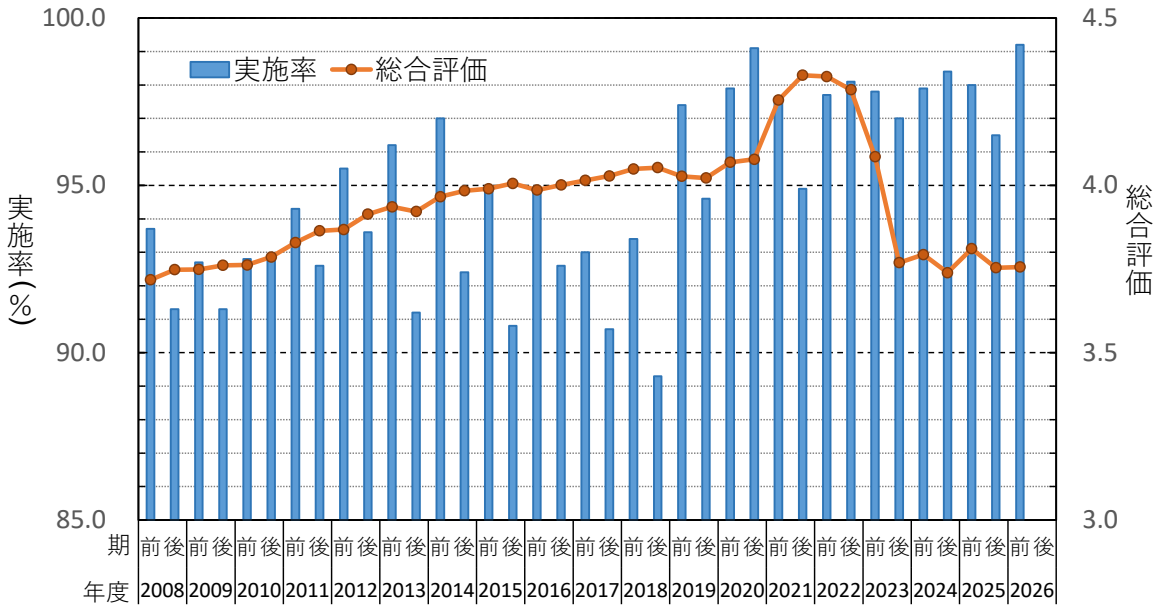
4. おわりに

今回の授業アンケートでは，昨年度までと比較して全体的な回答傾向に大きな変化は見られませんでした．授業に一定の難しさを感じている学生がいる一方，多くの学生が意欲的に取り組み，到達目標を概ね達成できたと認識しており，授業に対する総合的な評価も高い結果となりました．また，教員の話し方や資料の提示方法，授業中の雰囲気づくりなど，授業内容だけでなく「伝え方」も学生が重視していることがうかがえます．一方，事前・事後学習が 0～1 時間の学生が 7 割を超える状況が続いています．授業への意欲を授業外での主体的な学習につなげるため，事前・事後学習の目的や取り組み方を示すなど，引き続き学習を促す工夫が必要と考えられます．

今年度から新たに調査した生成 AI については，授業で利用した学生が半数近くに達し，質問・相談や情報検索，構想・アイデア出しなど，さまざまな形で学習を補助する手段として利用されていることが確認されました．また，シラバスでは 9 割以上の授業で生成 AI アセスメントスケールが明示されており，今後はすべての授業で利用方針が明示されることを目指すとともに，学生の利用実態を把握しながら，授業の目的や特性に応じた生成 AI の適切な活用について検討していくことが重要と考えられます．

FD 委員会では，引き続き授業アンケート等を通じて学生の学修状況や授業に対する認識を把握し，質の高い教育の実践に向けた情報収集と改善施策の検討を進めてまいります．生成 AI についても，FD 研修会等を通じて情報提供や活用事例の共有を進めておりますので，本結果とあわせて今後の授業設計・授業改善にご活用いただければ幸いです．

参考資料



付図 1　授業アンケート実施率と総合評価の推移（2008 年度前期～2026 年度前期）

※2023 年度後期からの総合満足度平均値の低下については，授業アンケートの設問全体の見直しを行い，学生の評価段階（スケール）を 1 段階引き上げたことによるものである．

付表 1　授業アンケート評価点の推移（2008 年度前期〜2026 年度前期）

	前期		後期	
	実施率(%)	総合評価	実施率(%)	総合評価
2008 年度	93.7	3.718	91.3	3.748
2009 年度	92.7	3.749	91.3	3.761
2010 年度	92.8	3.762	92.8	3.786
2011 年度	94.3	3.829	92.6	3.864
2012 年度	95.5	3.868	93.6	3.914
2013 年度	96.2	3.936	91.2	3.922
2014 年度	97.0	3.966	92.4	3.984
2015 年度	94.9	3.990	90.8	4.006
2016 年度	94.9	3.986	92.6	4.001
2017 年度	93.0	4.015	90.7	4.028
2018 年度	93.4	4.049	89.3	4.053
2019 年度	97.4	4.027	94.6	4.022
2020 年度	97.9	4.069	99.1	4.078
2021 年度	97.5	4.255	94.9	4.329
2022 年度	97.7	4.325	98.1	4.286
2023 年度	97.8	4.086	97.0	3.769
2024 年度	97.9	3.793	98.4	3.739
2025 年度	98.0	3.811	96.5	3.754
2026 年度	99.2	3.756		